

頰椎前方固定術の患者用パンフレットを作成しての学び

近藤夕加里

【はじめに】当院は脊椎疾患を中心に内視鏡下手術を行っている急性期病院である。症例数は少ないが、頰椎前方固定術の症例を実施している。対象が少ないため、頰椎前方固定術に関する資料や患者指導用パンフレットがなかった。スタッフ間でも患者指導の方向性が明確でないという声も聞かれ、患者の退院指導はその都度担当医師へ確認しながら行っていた。そこで患者指導の統一と患者の入院から退院後の生活までイメージ化が図れるようにすることを目的にパンフレットを作成することにした。

【方法】病棟チームメンバーに協力を得て、頰椎の解剖・疾患の特徴・術前後の注意事項などの各項目を分担、パンフレット作成計画書を作成した。また使用時の評価として、患者用アンケートも作成した。

【結果】作成内容を各項目ごとに分担したことで学習の幅が限局され、その部分だけに集中して取り組んでいけた。作成に参加したスタッフからは「学びが深まった」「指導のポイントがわかった」との意見が聞かれた。また、作成計画書を作製し、具体的に期限を設けたことで進行状況がわかり、予定通りスムーズに作成が進んだ。

【考察】今回パンフレットを作成するにあたり、内容を随時医師へ確認したり、意見交換を行ったことにより、医師の考えや指導してほしいポイントを再確認することができた。また、医師や看護師が指導したいことのみでなく、過去に患者からあった質問とそれに対する返答を加えたことにより、患者目線にあわせたパンフレットになった。退院後の生活での注意点のみでなく、頰椎の解剖や術式についても触れたことで術前から使用できるパンフレットになった。作成にあたってはチームメンバーと協力しあうことで学びを共有でき、数倍の学びにつながった。

【まとめ】作成の際は他スタッフに協力を得て皆で学びを深めることができた。また、患者へむけたパンフレットを作成する際は、医療者が伝えたいことと、患者家族が知りたいことを中心とすることで、入院から手術、退院後までの使用することができるパンフレットとなった。